**第４回日置市****部活動在り方検討委員会　会議録**

○日　時：令和５年９月12日（火）　午後３時00分～午後４時30分

○場　所：日置市中央公民館　大会議室

○出席者：奥教育長

委　員：田中委員長・元山副委員長・柚木委員・下笠委員・石川委員

小林委員・竹内委員・諸正委員・東委員・川畑委員・船倉委員

野間委員・寺園委員・鵜木委員

※　学校現場の意見を聞くため，委員以外に市内の４中学校長も出席

事務局：久木崎(事務局長兼教育総務課長）・松岡(社会教育課長)

中鉢（学校教育課長）・秋丸(スポーツ振興係長)

　　　　児玉(参事兼指導主事)

１　開会

２　教育長挨拶

**３　議事**

1. **市部活動の地域移行スケジュール(案)**
2. **モデル事業について**

**上記２項目について，別紙資料に基づき事務局より説明**

田中委員長：それでは、(１)市部活動の地域移行スケジュール(案)につきまして、ご質問等がございますか。

　　　　　（特になし）

　　　　　　　それでは(２)モデル事業について、目的・期間・検証事項の説明がありました。こちらについて、ご質問等がございますか。

　　　　　　（特になし）

　　　　　　よろしいでしょうか。

　　　　　　　それでは続きまして、(３)日置市部活動の地域移行プラン、(４)Ｒ６部活動地域移行のイメージの説明を併せてお願いします。

1. **日置市部活動の地域移行プラン**
2. **Ｒ６部活動地域移行のイメージ**

**上記２項目について，別紙資料に基づき事務局より説明**

　田中委員長：本日のメインはここになるかと思います。今後に向けて日置市としての方向性をある程度示していきたいということです。

それでは、（３）日置市部活動の地域移行プランについて、ご質問がございましたらお願いします。

奥教育長：　その前によろしいでしょうか。

今、担当から説明しましたのは、あくまでも私共の仮定ですので、そのようにご理解いただきたいと思います。

部活動の地域移行は運動部だけでなく、文化部も併せて行いますが、色々と考える中で、現実的に進められる方向から提案させていただいたのが、今日のプランです。

しかしながら文化部においても、委員の皆様方から可能性のある方法があればご意見を聞かせていただいて、今後検討していけるかと思っております。文化部関係でご出席の方々は、そういう視点でもお考えいただければありがたいと思います。以上です。

田中委員長：それでは、質疑をお受けします。

　野間委員：　ジュニアオーケストラの野間です。

先駆けて現在合同でやっているという説明がありました。今日は中学校の校長先生方が皆さんおいでだということですので、具体的にどのような状況なのか、学校のお話を聞かせてくだされば嬉しいです。よろしくお願いします。

田中委員長：モデル事業①合同チームのことですね。これについて現状をご説明いただければと思います。

東中校長：　東市来中学校です。

モデル事業①、野球部ですが、３校合同で行っています。現状としては、自分達の学校の子どもに怪我があってはいけないということで、必ず顧問は全員出ます。

そこが来年度から交代制になると、だいぶ変わってくるのかなと思います。本校の顧問は競技経験はありませんが、やはり日曜日には練習に行って、一緒に練習をしているのが現状です。

　　　　　　それから陸上部も同じような形で、専門ではありませんが、土曜日の練習には顧問が行って、一緒に練習をしている状況です。サッカーも同じように、東さんも来られていますが、顧問も一緒になって指導している状況です。以上です。

北中校長：　伊集院北中学校でモデルをしているのは、陸上部の６ページの上に書いてある形ですが、今は教職員も練習に行っているので、特に軽減されているという状況はないと思います。

吹中校長：　吹上中学校です。

吹上中学校は野球部に専門の先生がいて、熱心に取り組まれています。県大会３位でした。その先生にも聞きましたが、やはり、平日に指導をして土日に試合が多いので、現時点では部の顧問が試合に行く設定になっていますが、ここが土日だけ移行するとなると、何か違うんじゃないかという話はしていました。

部活動の顧問は、専門でない先生は難しいところがあると思いますが、専門の先生の中にはやりたいと思ってらっしゃる先生もいるという話もされておりました。

土日の試合があるので、例えば、誰かが交代で１人しか行かないとなった時に課題はないのかということと、この提案が今ある形でということなのかなと思いながら聞いていましたが、どこを８年度に向けて変更していくのかが気に掛かります。

　　　　　　柔道に関しては、現在は単独で行っております。顧問の先生と指導者の方が来てくださっていますが、例えば試合に出る時にはその時だけ合同という形で出るのかなと思いながら、これを見ていました。以上です。

日吉校長：　日吉学園です。

日吉学園はモデル事業①の野球部でしたが、今回県大会第３位という輝かしい結果を残して、３年生が抜けたら部員がゼロになってしまいました。来年度、ソフトボールの少年団等の子どもたちが日吉学園の野球部に入るかどうかは不透明です。地域のスポーツ少年団、クラブチームの方に流れていく子どもの方が多いのかなと想像しています。顧問は経験も非常にあり、土日も忙しく働いていました。

ここには載っていませんが、現状として女子バレー部は先輩２名が抜けて１名です。この子どもに今まで合同チームを組んでいた串木野中から声を掛けていただき、そこで一緒にするかどうかを今、考えているようです。

　　　　　　　剣道部が現在４名、卓球部２名と、非常に少ないにもかかわらず、教頭先生が剣道部の副顧問、女子バレー部の顧問として２つ兼務している異常な事態が発生しておりまして、教頭先生の業務が大きな負担になっています。本人はいい機会と感じて、一生懸命取り組んでいただいていますが、そういう現状があります。以上です。

　伊中校長：　伊集院中学校です。

伊集院中学校は野球部が、３年生がいなくなりまして、２年生が１名、１年生が３名の４名で市来中と合同を組んでいます。その時の指導者は２人共経験者ですが、市来中の先生をメインにして総合監督とした上で、平日はそれぞれの学校で個人練習をして、土曜日か日曜日に集まって練習あるいは練習試合といった状況です。

練習会場は市来中を使ったり伊集院中を使ったり、交替で使っています。子ども達は違った友達と出会えて、他の学校の友達と楽しそうにやっているのが現状でございます。以上です。

土中校長：　土橋中学校です。

土橋中学校は男子女子のテニス部しかありませんが、今日のご提案を聞いて、現状で半歩でも一歩でも前に進むにはどうしたらいいかというご提案かなと感じました。

吹上中学校の波戸先生もおっしゃったように、実際の大会の参加はどうなるのかとか、例にあった土橋中の子どもが１人、野球に行きたいとなった時に、このプランＡが考えられるという話でしたが、現実的にはそこに顧問が付かないといけないのかとかいうことが出てきます。

このプランＡは現状のプランＡですので、このプランＡの中の外部指導者は地域指導者として、その方に全てお任せするのであれば土橋中の顧問は付く必要がありませんので、地域移行に繋がるかと思いますが、色々なところを検討しなければならないだろうと思いました。今日のご提案はとにかく半歩でも前に進むために、どんな形があるかということだと感じました。以上です。

田中委員長：ありがとうございました。中学校の現状でございました。

野間委員：　ありがとうございます。大変参考になります。

音楽に関しては、先程文化面もということでしたが、音楽が学校で担っている部分は、例えば体育祭とか式典、入学式などの場面で、それぞれの学校で演奏されているのが実情ではないかと思います。

そうしますと拠点校で一緒にというのは、なかなか結び付いてこない気がします。そこで、指導者の負担を軽減する観点から、例えば今オーケストラには何名か指導者が来ております。その中から都合をみて、学校へ出向くことは考えられる気がします。ただ吹奏楽部なり音楽部がない所で、生徒さんの中に音楽をしたいという方がいらっしゃれば、そうした方の受け皿はできるかと思います。

部活動を見ながら、どんどん少子化が進んで、チームでの競技が多い中、学校で合同を組むのは時の流れなのだろうと感じました。ただ、今の校長先生方のご意見を聞いていると、指導者をどういうふうに担当してもらうかとか、職員の負担を考えた時にどういう調整が必要か、先程総括コーディネーターというのがありましたが、そうした存在が大きくなるのかなと感じながら聞かせていただきました。以上です。

田中委員長：はい。ありがとうございました。その他、質問等お願いします。

鵜木委員：　１つ質問をさせてもらえますか。

田中委員長：どうぞ。

鵜木委員：　プランＣに実業団とありますが、これはフラーゴラッドさんをイメージした形だろうと思います。フラーゴラッドさんは現在実業団としてやってらっしゃいますが、将来的にはプロリーグに参戦するという形ですよね。

川畑委員：　今シーズンからプロリーグには参戦いたします。書き方として実業団という書き方で、「バレーボール事業で収益を得ている」というニュアンスで書かれているのかなと思っています。

鵜木委員：　プロチームということですね。例えば、そのプロチームから指導を受ける中学生が、アマチュア規程に抵触する危険性はありませんか。

川畑委員：　それは大丈夫です。この後、ご質問させていただこうと思っていました。

　鵜木委員：　野球の場合はプロ野球選手や元プロ野球選手から指導を受けると、その方々がアマチュアの指導資格を取らない限り、学んだ子ども達は出場資格がなくなることがありますので、質問させていただきました。

　川畑委員：　引き続きよろしいでしょうか。いつもありがとうございます。フラーゴラッド鹿児島です。

　　　　　　　モデル事業⑤がうちを想定していただいたのかと思いますが、来年度のシーズンから、アンダー15カテゴリーのチームが必須になります。つまり我々は「アンダー15カテゴリーのチームを持たなければならない」という新規約に変わりました。もう１つ言うと、2030年までの７年計画で「アンダー18カテゴリーも作らないといけない」と、これが来年度から必須になっています。

そうなった場合、今回のモデル事業⑤を見させていただいて「伊集院中学校の男子バレーボール部を我々が運営するというイメージですか」とお聞きしたいです。我々としてはアンダー15カテゴリーが必須になりましたので、伊集院中学校の部活動だけを運営するとなると、少し違ってきます。

鹿児島市内の中学生が我々の下部組織に入りたいということも想定されますし、日置市外の中学生が入りたいというケースも間違いなく考えられると思います。その時に我々が運営するであろうアンダー15とは全く別で依頼をしたいということなのか、一緒に運営していいのか。運営は委任するものなので、運営としてはうちがするということですよね。

３ページのプランＣの形態としては、運営は実業団等が運営する、つまり運営団体に委任する形となった時に、伊集院中学校の男子バレーボール部を我々が運営することになるのかなと。イメージとしてどのようなお考えか教えていただければありがたいです。

　奥教育長：　今のお話と我々のイメージは違います。アンダー15のチームを作らなければならないという認識はありませんでした。ここでは部活動の運営を、例えばフラーゴラッドさんにお任せするパターン、語弊があるかもしれませんが、極端に言うと、指導などのご協力をいただくというパターンを想定しております。

従って、これは１つの例ですので、指導の一環をどこかでお手伝いいただくというパターンと言った方がいいかもしれません。ここに書いたイメージとしてはですね。全くそのままフラーゴラッドさんのチームとして移管するようなところまでは想定をしておりません。

川畑委員：　そうですよね。そうなった時に、例えばプランＣだと、保険は学校管理ではないとか、イメージ図でいうと、市内の中学生もいるということですよね。

「指導及び事務作業等は競技実業団が行う」と書いてありますが、事務作業とは具体的にどんなことですか。あと「休日を中心とした24回」と書いてありますが、年間24回でしょうか。月24回でしょうか。

児玉参事：　年間24回です。色々な手当や報酬、保険などの試算を出す上での目安として24回となっていますが、場合によっては36回を上限として前後はあるかと思います。本日お示ししているプランとしては、月２回程度、年間24回で進めてみてはどうかという提案です。

久木崎局長：実際来年度からモデル事業に入る中で、そこを詰めていくことが重要なので、必ずしもこれは実態に合っていないと思います。

このモデル事業を行う中で、そこをどうしていくかを検討する必要があるということと、この中で「これだったらできる」というのをご検討していただければと考えております。ご意見としてはありがたいと思います。よろしくお願いします。

川畑委員：　学校側としては、７ページのイメージ図の中で、今のモデルとしては、伊集院中学校の男子生徒のみが対象となっています。右側に市内の中学校の希望者とありますが、これは例えば東市来中学校の生徒さんがバレーをしたい場合は、伊集院中学校の男子バレーに参加して、合同チームにするという認識ですか。

児玉参事：　必ずしも一緒に練習するからといって、合同チームではありませんが、学校に部活動はないけれどもバレーボールをしたい子ども達が「一緒に練習したい」と言えば、受け入れる形で進めていけたらいいなというイメージです。

川畑委員：　練習だけですか。試合に出るとなると中体連の登録などで、結局クラブになるかと思いますし、このモデル事業⑤はすごく色々なことが混ざっていて、このシステムをとるんだったら完全にクラブにした方がいいような気がします。

伊集院中学校だけだと、お互いに学校で中体連登録をされていて「人数が足りないので合同チームです」という所はたくさんあると思います。

今の鹿児島城西高校の監督の先生は、東市来中で男子部員１人だけで、当時はそういうシステムが無かったので、女子バレーの中で毎日練習をしていたということで、そういう方が間違いなく各学校にいらっしゃるのかなという思いはあります。

バレーボールの世界では小学校は混成が認められていて、男子３人、女子３人で試合に出たりしています。女子の部、男子の部、混成の部とあって、混成の部では鹿児島県は全国でもトップレベルで登録数が多いです。ただ中学校にいくと男子女子でネットの高さが違ってくるので、男子と女子に分かれて、結果的に男子がない所は他の競技に行ってしまうのがバレーボールの現状です。

そういった子ども達が小学校にたくさんいると思うので、その子ども達が活動できる場を作りたいと思っていますが、そうなってくると、この「１つの学校プラス他の学校」は若干違ってくる気がします。すごくご協力させていただきたいところもありますし、色々な可能性を含めてお話しさせていただきたいと思いますが、現状のイメージとしてはそういうことだと認識しました。ありがとうございます。

鵜木委員：　アマチュアの規程はないわけですね。

川畑委員：　ないです。むしろ、そういうチームがアンダーカテゴリーを作らないといけなくなっています。中体連に登録するかどうかは別問題です。

鵜木委員：　アンダー15のカテゴリーの中であれば、中体連の大会に出る時に、プロから指導を受けている事には全く抵触しないということですね。

川畑委員：　現段階で、バレーについてはそうです。

　土中校長：　今のお話を聞いて、私も同じことを考えていたんですが、今は「10段階の内の１段階をまず来年やりましょう」という事ではないかという印象を持ちました。恐らく言葉を崩して言えば「平日は学校でみます。土日をみていただける所はありませんか」というシステムのような気がします。

例えばバレーの大会で、その大会の参加者の主体は学校になるのかクラブチームになるのかとなると、クラブチームとしては事前に登録をしないといけないので、今の段階ではクラブチームでは登録できません。うちの生徒が「バレーで練習に来ました」と言っても、うちの生徒はバレーの大会には出られない訳です。ゆくゆくは平日も含めて地域団体の方にみていただいた時に、地域移行となりますが、今の段階では無理なので、それを探る方策として「まずは土日における地域移行をなんとか形にできないか」というのが、この提案なのかなという印象を持ちました。そういった認識でよろしいでしょうか。

奥教育長：　基本的には、地域移行を進められるものについては、種目によって違うと思いますが「平日も土日もどちらも」というのもありだと私は思っています。

運営上無理であれば土日だけということです。地域の方々に指導に入っていただくとなると、やはり仕事の関係もあって、土日からが入りやすいのかなというのが最初の入り口です。しかしながら、最終的には全ての地域移行が目標だとするならば、現段階でどちらもいっぺんにできれば、それはそれでいいんじゃないかと思っています。

　　　　　　先程川畑委員からご提案のあったことは、確かに具体的なものをイメージした提案ではありませんが、私たちの町にいらっしゃる訳ですので、何らかの形でいずれ関わっていただきたいと思っています。アンダー15というスタイルでなくても、バレーの専門家が近くにいらっしゃるわけなので、指導者として関わっていただければ、入口としては非常にありがたいです。むしろご協力をいただかないともったいない気はしております。

　　　　　　話を戻しますと、平日プラス土日というスタイルも可能であれば、ミックスもあっていいのかなと思っています。

寺園委員：　スポーツ少年団の寺園と申します。

７月２日にサンロイヤルホテルで県の指導者研修会がございました。研修会の後、県教委の方が来られて30分程、部活動の在り方委員会の説明がありました。その中で地域指導者あるいは外部指導者の人材バンクを設置したいというお話がありましたが、日置市としてもそういう地域指導者あるいは外部指導者の人材バンクを設置して、そういう方がおられるのか。

これは私の考えですが、外部指導者の場合も平日となると、定年退職した方が指導するか、あるいは消防や警察などの輪番勤務で１日おきに休みのある方が指導するかです。そういう方が人材バンクをしておられれば、地域移行して外部指導者にお願いすればいいと思いますが、いなければプランＡで、やはり部活動は学校教育の一環ということで先生方が平日は練習して、土日は外部指導者とすると「自分が指導したのに、何で試合の時は外部指導者が出すのか」という問題もあると思います。

そこも含めて、日置市としても人材バンクを設置されるのか、そこもお聞きしたいと思います。以上です。

田中委員長：はい。人材バンクについて、関連してご質問ございますか。

　　　　　（特になし）

　　　　　人材バンクについて説明をお願いします。

児玉参事：　私から説明させていただきます。

先進的に取り組んでいる薩摩川内市の人材バンクを拝見しまして、本市としましても、ゆくゆくはそのようなものもイメージの中にはあります。

ただ、まだ具体的には進んでいませんし、薩摩川内市さんが言われていたのが「早くから取り組んではいるが、まだ30名いかない段階で、なかなか人を集めるのが難しい現状があり、この部活動の地域移行において、人とお金が特に大きな問題である」ということでした。

　　　　　　まずは先程説明させていただきましたように、この検討委員会の中である程度の方向性を決めて、これでやっていこうという所がまずはスタートということで、そこを踏まえて取り組んで行きつつ、人材バンクも早期に方向性を示していけたらいいかと考えています。以上です。

田中委員長：よろしかったでしょうか。

　　　　　（特になし）

　　　　　　それでは船倉委員、お願いします。

船倉委員：　コミュニティスポーツ、チェスト伊集院の船倉です。

前も何度か言いましたが、現在チェスト伊集院では中学生が６つくらいの中学校から来て、中学生だけで20人超えている状態です。

チェスト伊集院の小学生から上がった子がどうしてもやりたいということで、中学生も何年か前に始めましたが、最近では小学生でチェストじゃなかった伊集院北中の子から「入らせていただけますか」と言われて、色々考えましたが、部活動移行の問題もあるので「いいですよ。一緒に頑張ろうね」という感じで受け入れています。

うちはプランＡの形になると思います。先程の土日というのも分かりますが、寺園さんや吹上中学校の校長先生が言われましたように、チームでするところは、平日は中学校の先生方が指導して、外部指導者が土日の大会で采配するというのはとてもやりにくいと思います。そこをどうしていったらいいかという事もありますし、陸上は登録の問題があります。

例えば、中学校で登録したら、クラブではその大会に絶対出られないとか、そういう課題もあります。国が絶対に変えないといけないと思っていることがあるんですが、リレーに関しては、例えば東市来中なら東市来中の子が４人揃わないと出られません。総合型で20人いれば何チームもできて、すごいチームもできると思います。全国に行けるくらいのメンバーもいるので、そこを私達はすごくやりたいのに、同じ中学校で４人です。県駅伝もです。チームで作れない。そこは本当に変えていかないと、こんな矛盾しているところはないと思います。そこは苦しいところです。今チェストはそういう感じです。

田中委員長：それは中体連の大会の時ですか。

船倉委員：　中体連です。中体連が全国に繋がっていますので。

伊集院中の男の子が１人「僕は中学校の部活に入らないで、総合型のチェストだけでいきます」と言って入ってきました。子ども達がかわいそうです。どうしていいか分かりません。

田中委員長：それについては県の陸連か何かのシステムが変わらないと難しいですね。

今の話を総合的に言うと、モデル事業⑤については現実問題として、非常にハードルが高くて厳しいと思いますので、目指す方向として、今の段階ではこのスタイルは外れてくるのかなと思います。

ただ船倉さんの方には場面場面で子ども達の育成にご協力いただいて、その中からだんだん地域との繋がりを探っていくというところかと思います。いきなり「船倉さん面倒をみてください」というのは無理だと分かったので、実現可能な第一歩としては、このモデル事業⑤は外れてくると思います。

そうなるとモデル事業①か、少年団との連携の部分はどうでしょうか。実現可能でしょうか。東市来中関係で具体的にご説明いただければと思います。

東　委員：　東市来中学校サッカー部外部指導者の東です。少年団のサッカーの代表をしています。

中学校に上がった段階で、サッカーをしたい子ども達を見捨てる訳にもいかないという一心で、週に火水金で少年団の練習がありますが、それに合わせて学校が終わってから、中学校に特別な許可を頂いて自転車で移動して、東市来の総合運動公園で練習をさせてもらっております。

少年団は指導者が多いので、自分がいなくても誰かしら目を向けられるということで、そういう形で20年近く続いております。土日もやはり試合が多いので、その時はお願いして土日に出る形で、大会等は参加しております。土曜日か日曜日のどちらか１日になります。

中鉢課長：　中学校の顧問の先生方も土日は参加されているんですか。

東　委員：　基本的には来られますが、どうしても用事がある時は，来られません。審判とかありますので。

中鉢課長：　必ずしも行かなくても、少年団の指導者だけでいいのですか。

東　委員：　土日に関しては、他の指導者ではなく自分だけです。中体連の大会は、当然顧問も付いて行きます。あとは一般のちょっとした大会とかですね。

自転車での移動もあるので、それも含めて、スポーツ安全保険の高い方を別で掛けています。

田中委員長：はい。ありがとうございました。他にご質問はございませんか。

北中校長：　先程教育長から「現段階で休日だけでなくても、全面移行も可能である」と聞いて、ヒントを持ちました。川畑さんの方から、伊集院中のバレーボール部と実業団のこれは難しいですよねという話でしたが、形を変えて、例えば実業団の方が年24回でなく、月１回でスポーツ教室を開いて「どこから来てもいいよ」とすると、月１回分は先生方の部活動に関する指導が減りますよね。そういう形の１回分と考えて、地域のスポーツ少年団があれば、実業団と別でもいいと思いますので、スポーツ少年団の方でも開いていただいて、年間24回の内の月１回分をスポーツ少年団で全体を集めてもつという提案です。

先程の話の目的の中に、子ども達の部活動ができる枠を広げる事と、２番目はもちろん了解していますが、根本は働き方改革の一環ということで「土曜日、日曜日の負担を減らすこと」です。

今陸上の方からもありましたように、だいたい大会が土日にありますが、土日の練習日の内の１日を減らしていって、そこからまた何か探るということを考えました。部活動の王道の所があって、月４回土日の練習があるとすれば、その内の１回をみんなで分担するとかですね。

基本は合同練習会という形のものを実業団やスポーツ少年団が月１回でもまかなって、特定の学校の部ではなく、スポーツ教室的発想でやるというアイデアはどうでしょうか。

田中委員長：今の質問に対して、川畑さんどうですか。

川畑委員：　うちとしては可能な部分になると思います。競技をしたいけどできない生徒さんがたくさんいらっしゃる所もあると思いますので、そういった部分の協力はいいのかなと思います。

色々なご意見があるので難しいですね。学校さんのご意見、チームの意見、色々あると思います。学校の先生方からすれば、１日でも負担を減らすという部分と、チーム側としては、やるからにはチーム練習をしたり、少しでも練習の機会を増やしたり、試合に出たりすることを目標にしていくと思いますので、その辺の折り合いをつけていければいいかと思います。

校長先生がおっしゃった月１回、教室を開くことは難しい話ではないと思います。シーズン中は若干難しいかもしれませんが、そういう機会を少しでも増やすことは可能かと思います。

田中委員長：チームの時期的な事情もございますので、無理のない範囲で12回と言わず６回でもそういうのがあると、「参加するのは中学校の部活動の子でもいいし、全く素人の子でもいいし、興味のある子はどうぞ」というスタンスでできたらいいのかなということですね。

北中校長：　ありがとうございます。要は学校での指導を減らさないといけないが、土日の大会に行く分については我々が付いて行った方が部活動としてはいいのでそこは譲れないとなった時に、その一歩として皆を集めてスポーツ教室的なことをやると、１回分は減るという発想です。ありがとうございました。

田中委員長：他にご意見ございますか。

　船倉委員：　今の話と併せてですが、そうするには学校の先生がそうしようという決断が大事になってくると思います。本当はしたくないのにとかではなくて、そう決める以上はしっかりしてもらわないと、やる方も少し大変ではないかと思います。

　　　　　　　１つだけお願いしたいんですが、うちは水木土やっています。大会が日曜日にあれば、大会も行きます。私達がしていることはこれから移行することの小さな一歩なんですが、その時にクラブに入っている子ども達が、学校でも部活に入っていて「クラブの方に練習に行きたい」と言った時は、「いいよ」と行かせていただけたらありがたいと思います。

田中委員長：中学校の校長先生方どうでしょうか。代表して東市来中学校の校長先生。

　東中校長：　東市来中は全然大丈夫です。クラブチームに入っていればそのまま行かせます。

　田中委員長：そこはまた、各学校で課題としてください。ちなみに伊集院中学校は水泳が、水泳部の子とクラブの子がいるので、クラブの子は率先してクラブに行っています。ご意見として承りたいと思います。

　　　　　　　そろそろ時間になりますが、方向性としては大きな表でいうと、拠点校型Ａ合同部活動は現状を少し広げた感じなので、当然推進していく方向になりますね。そうなると、とりあえずこのモデル事業①がベースになるということでよろしいでしょうか。

　柚木委員：　このプランＡでいくとなった時に、現状を踏まえてこの形でいくのであれば何の問題もないと思います。今の東市来中、吹上中、日吉学園の合同チームの形を地域移行のひな形として、来年もやっていくのであれば何の問題もありません。

　　　　　　　ただ先程言ったように、土橋中の生徒がここに参加したいという事で方向を広げるとなると、今の段階ではうちも顧問を付けないといけなくなってきます。そうなると、うちの少ない人数の中では顧問を付けることができないので、今の段階ではそれは無理です。

　　　　　　　先程言った10段階のうちの１段階としてこれを考えて、現状をそれでやるということであれば無理はないと思いますが、このプランＡを地域移行として日置市全体に広げるとなると、今の中では叶わないかなと思います。現状をこの形に充てるのであれば、これで大丈夫だと思います。以上です。

児玉参事：　事務局からです。

今言われたように、ゆくゆくは子ども達の選択肢を可能な限り広げるという意味では、学校に部活のない子達も受け入れることまで考えていくべきだと思いますが、来年度検証していくという意味では、従来の形をベースとして試していく形で進めていきたいと考えております。以上です。

東中校長：　関連した質問ですが、モデル事業①、モデル事業②については、現状から一歩前進して、例えば東市来中、吹上中、日吉学園が合同で練習するのであれば、どこかの学校の顧問が付けばオッケーということですよね。それでなければ全く前進がありませんので、そういう考え方でいいでしょうか。

児玉参事：　はい。そのような形で考えております。

田中委員長：そこについては事務局の方で、今後具体的に詰めていくということです。兼職兼業のことも考えないといけませんので、そこを今後検討して、できること、できないことを整理していくということでよろしいでしょうか。

奥教育長：　方向としては、今日２つくらいにプランを絞っていただいた上で、最初に申し上げましたように、実際やるのは学校ですので、学校の先生方と十分詰めて、具体的な形をもう一度ここで示させていただきたいと思います。

おっしゃるように、今までと全く同じように顧問の先生方が全部集まってやるとなれば、何も変わりませんので、そこを詰めていきたいと思います。できる形でやらないと先に進みませんので、今より良い形でやれる方向をこれから検討していきたいと思います。

　　　　　　それから先程の土橋中の子どもさんの例ですが、イメージとしては、部活動の無い学校の子どもさんも「こういうスポーツをしたい」というのがあれば、そういう子どもさんも参加できるようにしたい、というのが私の発想の中にはあります。今は無理かもしれませんが、そういうことも実現できる方向を今後探りたいと考えています。

寺園委員：　今、土橋小の子どもがうちでソフトボールをしていますが、中学校に野球部がないので、フレッシュ東市来という硬式の方に行っています。

もしモデル事業①で、東市来中、吹上中、日吉学園に土橋中が入って、この４中学校の内の誰かがみてくだされば、土橋中の子どもも硬式に行かずに、部活の方に行く可能性があるんですよね。その辺はどうでしょうか。

田中委員長：可能性として広がっていく見込みはあります。そこもメリットとして捉えていきたいと思います。ありがとうございます。

　　　　　　それではベースとしては、モデル事業①と、もう１つは、現状の少年団との連携もありますので、モデル事業④ですが、このモデル事業①と④をベースに具体的に考えていくということでよろしいでしょうか。

北中校長：　モデル①というのは合同チームということですか。

　田中委員長：そうです。

　北中校長：　チームということは、それでチームを作るということなので、例えば卓球の合同練習を皆でする時に、４つ学校があって月４回練習があるとすれば、２回はＡ校とＢ校、あと２回はＣ校とＤ校というような、いわゆる先生方をシェアするのが②案の陸上合同練習だと捉えていました。そうしないと結局顧問の先生はずっと付いて行かないといけませんので、そこを減らすのが目的だと僕は捉えていました。

合同チームの場合でもできますよね。合同チームはそもそもそこに顧問がいない場合があって、いなかったからお願いしますというのもありますし、人数が少ないからというのもありますが、たくさんの子ども達がいるんだけども先生の指導を減らしていく方が、いわゆる働き方改革の観点からはいいのかなと思います。そうすると、②案の合同練習型も残していた方が、現実的に先生方が休める回数は月１回でも増えるのではないかと思いますが、いかがでしょうか。

　　　　　　　すなわち、卓球を例に挙げましたが、４つある学校の内の２学校で面倒をみる回数を増やせば、先生方は休めるんじゃないかという考え方です。ですので今①と④とおっしゃったので、②もあるんじゃないかと思いました。

児玉参事：　今言われたように陸上で案は示しましたが、部活が変わるのは構わないと思っています。

具体的にそれぞれの学校でこの部ができそうだというのがあれば、そこを試していく価値はあるかと考えています。実際この部ができるのではないかというのが校長先生方のお考えの中でございますか。

北中校長：　顧問は４つの学校を集めて２人で行けば大丈夫と考えれば、３つか４つないとだめですね。

児玉参事：　４ページをご覧いただくと、本市の部活動の現状が分かります。卓球部は東市来中、北中、日吉学園です。３年生を含めた数なので、そこから減ってはいますが、そのような状況です。

　　　　　　モデル事業②については、それぞれの学校の実情もあると思われますので、そこは可能な範囲で探っていって、後の選択肢として残す分にはいいのではないかと考えます。

田中委員長：それではモデル事業①②、②は①と関連しているので、方向性とすれば①あるいは②と、少年団との連携ということで④、これに決定してよろしいですか。

　　　　　（特になし）

　　　　　事務局よろしいでしょうか。

児玉参事：　はい。こちらをベースとして考えさせていただきたいと思います。

1. **その他**

児玉参事：　事務局からです。先程説明していなかったかもしれませんが、　令和６年度の１年間で試してみるということです。実際にやってみた上で更に検証が必要であれば、令和７年度に引き続くこともあるだろうし、場合によっては令和６年度に試したものを更に発展させて、違う部活動や学校でという事も考えられます。そこもお知りおきください。

　　　　　　　第１回目から、本日で４回目ですが、以前お示ししておりましたように、令和４年度、５年度で４回の在り方検討委員会をもって、協議会に移行するイメージでおりましたが、今回、事務局の方で詰めていく中で、今年度にもう１度、最終的に「これで来年度試してみよう」というところをお示しする場を持ちたいと考えております。

つきましては本年度の年末から年明けに、本来の予定にはありませんでしたが、もう１度皆さんで確認していただく場を作らせていただきたいと考えております。それをもって、協議会に進む方向で、協議会につきましては、これまでの本市の部活動に関する流れを一緒に考えてくださっている皆様の中から、委員をお願いすることを想定しておりますので、その際は是非ご協力いただけたらありがたいと考えております。よろしくお願いします。

田中委員長：他にございますか。

　　　　　（特になし）

　　　　　よろしかったでしょうか。

奥教育長：　今のままですと、来年度のモデル事業をスタートするに当たって、漠然とした感じがいたします。今日概ね２個ないし2.5個くらいのプランに絞っていただきましたが、実際に関係のある学校の先生や顧問の先生も含めていかないと、来年度のスタートは難しいと思います。そこも含めて詰めさせていただいた現実的なものをもう１回提案させていただいて、それで来年度試行してみようかというところです。よろしくお願いいたします。

田中委員長：はい。年内に第５回を開きたいということです。その時は案内があると思います。

　　　　　　よろしかったでしょうか。

　　　　　（特になし）

　　　　　　それでは、協議は以上で終了となります。ご協力ありがとうございました。

４　その他：なし。

**５　閉会**